

アシさんたちは、工場労働者が住む地域を周り、性的少数者について知識を広めている。  
地元の警察にもこの巡回活動への協力を要請し、参加を得ている。



## アジア保健研修所(AHI) クリスマス・新年募金のお願い

ご支援くださるみなさまへ

国際研修の最終日に開催していたイベントを6年ぶりに復活させ、「おーくんはうす」を去る9月28日に行いました。内外に様々な状況の変化があり、従来のような規模にすることはできませんでしたが、時間をかけた話し合いによって準備が進められ、新しい工夫も加わり、さまざまな人たちが「あい・まなび・つながる1日」とすることができたと思います。

長年AHIを支えてくださる方々もたくさん来られ、「久しぶり」と声を掛け合っていた様子が印象的でした。来場者をはじめ、参加団体、実行委員、ボランティアの皆さんに感謝申し上げます。

今年も新しい国際研修修了者を送り出しました。その人たちの力と活動を通して、また「おーくんはうす」等での交流を通して、学び合う仲間

づくりが一層進められていくことを願っています。当法人の歳入の半分を占める寄付金収入において、その5~6割をクリスマス・新年募金に頼っております。ぜひご協力くださいようお願い申し上げます。

公益財団法人 アジア保健研修所  
理事長 齋藤 尚文

募金に  
ご協力ください

AHIは、誰もが尊重され、  
健康に暮らせる社会を目指して  
行動する人を育てています。

目標額  
1,300万円

期間  
2025年12月1日から  
2026年2月28日まで

### 送金方法

#### ● 郵便局から

口座番号 00870-8-49688

加入者 公益財団法人アジア保健研修所

#### ● 銀行から

金融機関 三菱UFJ銀行 平針支店

口座番号 普通預金 0750764

名義 賛助会員口 公益財団法人アジア保健研修所

#### ● クレジットカードで

AHIのホームページ「クリスマス・新年募金」からお入り下さい。右記のQRコード(Syncable)もご利用ください。

税法上の優遇:当法人への寄付や会費は、税額控除、所得税・法人税、および相続税の控除の対象です。

公益財団法人  
アジア保健研修所(AHI)

TEL 0561-73-1950  
FAX 0561-73-1990  
MAIL info@ahi-japan.jp  
HP http://www.ahi-japan.jp

# おかしいことは おかしいと言い続けて

2025年の国際研修の参加者、スリランカのアシさんは、長年工場労働者を支援する活動をしてきました。理不尽なことには臆せず声を上げてきました歩みを聞きました。

## アシさん、 研修で学んだことは 何ですか？

「5週間の研修は、私にとって異なる経験を持つ人たちと出会い、新しいことを発見するための実験室でした」

「この研修に参加する前は、自分自身の経験と知識を頼りに活動していました。でもここで、さまざまな人たちが持つ経験と知恵を集め、そこから教訓を導き出して、応用することを学びました」

\*

アシさんは懸命に走り続けてきた活動家。長年の経験を振り返り、強みや改善点を明らかにして、運動を継続、発展させるにはどうすればよいかを考える機会にしたいというのが、研修への応募動機でした。

アシさんの今後の活動計画は、現在支援する性的少数者を含む工場労働者の3つのグループから代表を募り、リーダーシップ研修を行い、それによってグループ全体の力を高めていこうというもの。いろいろな人たちの経験を集めて、そこから新しい力を生み出したいと考えています。アシさんの新しい取り組みはこれからです。



上：異なる立場や経験を持つ人たちが集まり、意見を交わす（アシさん：左から2人目）

下：アシさんの今後の計画は、育成してきたグループの代表が共に学ぶ場を作ること。

私は、スリランカ南部の農村で生まれました。両親と兄、弟と妹の5人家族で、父は村の郵便局に勤めいました。同時に、反政府運動である人民解放戦線（注1）にも加わっていました。私が9歳のとき、父がいなくなりました。1989年9月10日夜8時頃のことです。当局の役人が家にやつてきて、連れ去って行つたのです。そのときの情景は、はつきり覚えていません。父は、それきり帰つてしまませんでした。このように行方不明になつている人たちが6万人とも言われます。

私たち家族の状況は一変しました。生活苦だけでなく、巻き込まれの恐れで村の人たちはみな、私たちと一緒に合わなくなりました。週末にお寺で開かれる学校にも来るなどと言われました。

ようやく高校を卒業した私は大学進学をあきらめて働くことにしました。19歳でヨルダンに渡り、9ヶ月間家政婦として働きました。帰国後、輸出加工区（注2）で縫製工場の仕事に就きました。

私はほかの人と比べて学歴が高かったので、品質検査係を任せられました。

工場では、生産目標が達成できないと各ラインで連帯責任を負わされました。体調が悪くても仲間の目を気にして、休みをとることができませんでした。その一方で、労働者との定期会合がもたれ、会社は便宜をはかつてくれることもありました。会社はいろいろなやり方

で、労働者同士が結束することがないようにしていましたのです。

私は、担当ラインの代表として会合に出していました。あるとき、「なぜ人によつて昇給額が違うのですか？」どうやって決めるのですか？」と質問しました。年に一度ある昇給の額は、監督者の裁量で決められ、定まつた評価の仕組みなどありませんでした。

その質問をした途端、私は上司からにらまれ、周りの仲間からも無視されました。みんな解雇されるのが怖かったです。まもなく私は、工場を辞めさせられました。その日、早く下宿に帰つてきました。私は、近くの店のおじさんがわけをききました。そして、あるNGOの場所を教えてくれたのです。

そこへ行くと「弁護士をつけるお金はないが、裁判で闘う方法を教えてあげる。自分でやりなさい」と言されました。一所懸命資料を読み書類を用意して、21歳の私はたつた一人で裁判に臨みました。不安と怒りでいっぱいでした。会社は5人も弁護士を雇つていました。勤続一年未満だった私は十分な勝利でした。

6年前にひとりの労働者が自殺しました。その人は性的少数者として大きな悩みをかかえていたのです。生まれ育った場所でも、そして遠く離れて働きに来た工場でも差別される人たちがいることを、私たちは初めて知りました。こうして社会から排除されている性的少数者へのサポートを始めました。今では、当事者が安心して集まることができるグループを作り、その活動を支えています。また、周囲の人たちの理解を促すための活動にも力を入れています。

このようにして、私たちは少しずつ活動を広げてきました。これからも一人ひとりのあり方や考え方を尊重される社会をめざして力を尽くしていきたいと思います。

このことが周りに知られるようになると、私のところにいろんな相談が持ち込まれました。賃金や待遇、上司からのセクハラの問題もありました。私は必要に迫られて関係する知識や情報を得たり、

関係機関に連絡したり、助けになれるようがんばりました。私もその一人だつたからです。

そうして仲間12人でグループを作り、自分たちも工場で働きながら、問題を抱えた人への支援を始めました。

労働者のほとんどは農村出身で、身近に頼れる人もおらず、職場の人たちとも助け合うことが難しい状況にいます。私たちはまず、悩みを抱えている人が立ち寄りほつとできる場所を作りました。活動を続ける中で私は、社会活動に尽力した人に贈られる賞を受け、その賞金を使ってさらに活動をするために、2008年正式に団体を立ち上げました。

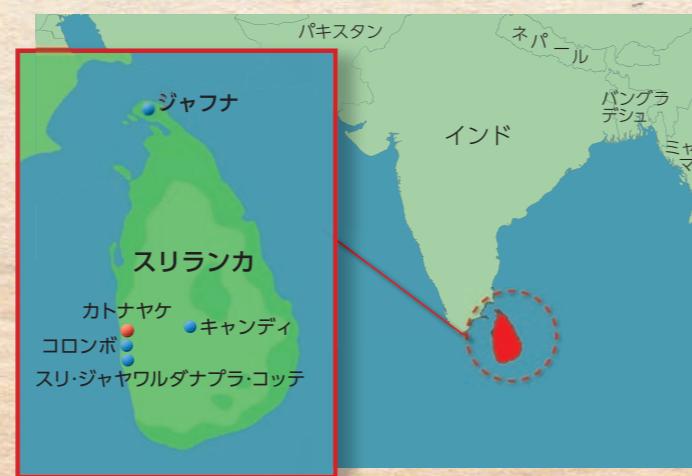
（注1）人民解放戦線多数派のシンハラ人による社会主義国家を標榜し、1960年代半ばに発足。理想に共鳴した若者が多数参加、80年代終わりから南部を拠点に反政府武装闘争を行つた。

（注2）輸出加工区外貨獲得と雇用の創出を目的に、外資本を呼び込むため、優遇策が講じられた特別区。スリランカでは初の加工区が、1978年国際空港近くのカトナヤケに作られた。

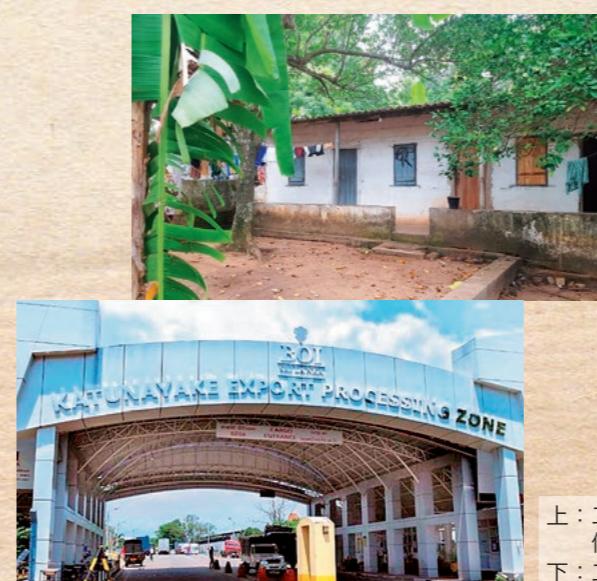


アシラ・ニロシャニ・ダンデニヤガマゲ（通称アシ）さん

自らも工場労働者として働きながら、25年以上労働者の権利を守る活動を行う。2008年に仲間とともにスタンドアップ・ムーブメント・ランカを立ち上げる。



上：工場で働く人たちの住まい。農村部から出てきて、工場周辺に部屋を借りる。個室もあれば、ひと部屋3人～5人のところもある。



下：工場が集まるカトナヤケ輸出加工区の大きなゲート